



奉仕しよう
みんなの人生を豊かにするために

GOVERNOR'S

Monthly Letter ④ Special Number



#世界で、日本で、地域で、
良いことをしよう

国際ロータリー 第2580地区ガバナー月信 vol.4 October 2021 特集号



今月はガバナー補佐特集号を増刊してお届けします。

ガバナー補佐の皆さんのご紹介(あいうえお順)を特集号でいたします。

素晴らしいスタッフです。クラブと地区を繋げていただいています。

他方、文字ばかりの難しいことは少なくして、今後はビデオでもお人柄を紹介します。地区の YouTube チャンネルでもご覧になってください。

ガバナー 若林英博

「担当クラブと共に学ぶ」

東分区ガバナー補佐 荒井知久 (東京江戸川)

1年間、若林英博ガバナーの補佐役として、岡本・瀧澤両ガバナー補佐と連携しながら若林ガバナーの考えを担当クラブの皆さんにわかりやすく伝えていきたいと思っています。

若林ガバナーの「世界で、日本で、地域で、良いことをしよう」という大きな目標を心掛けてロータリー活動をしていきます。また、未だコロナ感染が続く中、本来の例会活動が出来ない状況ではありますが、各クラブでいろいろな意見を出しあっていただける環境を作っていきたいと思っていますので、

ご協力お願いいたします。私自身、地区での経験も少ないですが、担当6クラブ皆さんと共に学びいろいろな経験を重ねてまいりたいと思いますので1年間よろしくをお願いいたします。



「健康で楽しいロータリー活動を」

武蔵野分区ガバナー補佐 荒井伸吉 (東京武蔵野)



私は40代前半から70代後半の今日まで、ロータリーライフを過ごしてきました。振り返ってみますと、その時代その時代を、有意義に楽しむことができました。40代は人脈を求め、お得意様に誘われるままに入会し、そこで偉大なる先輩方の生き様を見させてもらいました。そして自分がどの方向に向かっていかなければならないかを学ばせてもらいました。40代50代はがむしゃらに仕事をしました。

そこで職業奉仕という理念に出会いました。地区の職業奉仕委員会に出向し、三方よしの精神にも出会うことができました。60代で会社も、安定性が増し社員にも喜んでもらえるようになってきました。70代になって現役で会社を経営しながら、なお一層社会奉仕に力を注いでいます。これからも健康で、ロータリー活動を楽しく自信をもって過ごしたいと思っています。

「新型コロナでも変らないロータリー」

中央分区ガバナー補佐 牛島 聡 (東京お茶の水)



コロナでロータリーが変わったもの。それはどんな時でもオンラインなどでも繋がり、奉仕の歩みを止めないことへの行動でしょう。確かに現在でも多くの奉仕活動の実践や親睦は出来ていません。

しかし、一人では出来なくても同士が集まれば可能に出来るのがロータリーだと思います。世の中の変化に対応することが出来る組織は社会に必要とされ、逆に変化する事に躊躇していると社会から取り残されることになるでしょう。我々ロータリーは地域社会にとって掛け替えのない大切な存在になりたいものです。躊躇することなくウイズコロナ時代の先取りをしながら明るい未来を導き出しましょう。それは私たち自身がワクワクすることでもあり、ロータリーが未来に向けて前進していくことでもあります。

「ガバナー補佐に就任して」

東分区ガバナー補佐 岡本隆一 (東京ベイ)

新型コロナウイルス感染症拡大の渦中にあり、なかなか本来の予定どおりに進められず、さまざまな障害にぶつかることがあると思います。そのような時でも、柔軟に対応し、各クラブの特徴を活かしながら、ガバナーとクラブとのしっかりとしたパイプ役になれるようにしたいと考えています。

年度末の6月には、いろいろあったけどいい年度だったと言えるようにしていきたいでしょう。どうぞよろしく願いいたします。



～変化の真っ只中でガバナー補佐になって～

沖縄分区ガバナー補佐 新城恵子 (浦添)

浦添ロータリークラブに入会して13年。クラブ会長・理事を経験し、味見程度の地区委員で経験薄い私がガバナー補佐を与えられたのは、今にして思えば“幸運”でした。



やる気に燃えて走り出した頃「これは地区の事業ですか？強制ですか？」「献血？水辺？自クラブで精いっぱい。集中させて！」とか予想外の反応にショック。若林ガバナーの方針説明と積極姿勢に直に触れている私と、そうでない沖縄の会員との情報格差は強烈でした。

それでも一つひとつやり遂げていたら、ガバナー公式訪問を機にチームは目指すべき方向とクラブ実行計画が共有され、自発的に動きだした観がありました。役割が与えられた事の素晴らしさに感謝しています。ロータリーという場で、参加者の基盤を広げ、変化に適応変革するために、力を注いでいければと願っております。

「強いクラブと世界のロータリー」

東分区ガバナー補佐 瀧澤一郎 (葛飾中央)

昨年の夏にガバナー補佐エレクトを拝命、9月から次年度に向け若林ガバナー主導の会議やセミナーが矢継ぎ早に開催されました。

ガバナー補佐はガバナーの意向を理解しつつ、あくまで「クラブのお手伝い」という絶妙な立場にあります。更にコロナ禍で例会もなかなか開催されないところも多くオンライン例会も増えて来ております。そんな危機的状況のクラブ運営を改善できるように各クラブの会長・幹事の皆様を支援して行きたいと思っております。

東分区では9月13日のIMに田中作次元RI会長をお呼びして「強いクラブと世界のロータリー」という今まさに各クラブが目指すべきお話をいただきました。この話が多くのメンバーの奮起に役立つ事を祈念します。



「ピンチをチャンスに」

北分区ガバナー補佐 中川雅雄 (東京浅草)

一昨年の2月から始まったコロナウイルスの感染拡大はロータリー活動に大きな影響を与えました。緊急事態宣言の下、クラブ例会の休会、地区行事の中止など、対面式の会合を前提とする活動の中断を余儀なくされました。



若林英博ガバナーは『クラブの活性化』こそ、最重要課題と捉え、地区運営に数多くの変革を行いました。GPM（ガバナー、クラブ会長ミーティング）の開催によるクラブと地区との距離感を縮め、デジタル推進委員会の設立や月1回程度、開催されるワークショップ（セミナーの名称変更）、など、地区のクラブに対する情報提供は格段にアップしています。

新しい形のロータリークラブを考えるためにも、この危機的状況をチャンスに変えようではありませんか！

【VOICE 役員紹介】

地区のYouTube
チャンネルで
ぜひご覧ください



YouTubeチャンネル開局



“PEOPLE OF ACTION”

中央分区ガバナー補佐 中島弘人 (東京ワセダ)

私にとってロータリーは“PEOPLE OF ACTION”です。

「世界を変える行動人」でありたいと常に思っています。そのためにはロータリー活動にあっては常に“PRACTICAL”（実践的）でありたいと思っています。

若林ガバナーは行動的なガバナーです。私もそのガバナーに補佐を任命された立場としてアクションを大切にしたいと思います。担当クラブのリーダーと奉仕計画の具体的な話をし、アクションの実践に当たっては必ず根拠となるロータリーの世界共通ルールの原典を読んで確認し行動するようにしています。

みなさんと共に「世界を変える行動人」であればと願っています。



「もっと元気なクラブになろう」

北分区ガバナー補佐 長與博典 (東京後楽)



長期にわたる新型コロナウイルス感染拡大により、地区及びクラブは大きな打撃を受けています。この苦境に打ち勝つため若林ガバナーは今までにないあらゆる方策を実践されています。この若林ガバナーの思いをクラブと会員一人一人に伝えられるよう鋭意努力してまいります。

本年度北分区 IM は、若林ガバナーの大きな目標と 5 項目の一つに挙げられている「もっと元気なクラブになろう」をテーマに、合同例会をハイブリッド形式で開催予定です。北分区会員に限らず全国のロータリアンが視聴可能な方法で行います。日本のロータリービジョン策定委員会委員長を務めてこられた国際ロータリー第 2840 地区パストガバナー本田博己氏に基調講演をいただきます。ロータリーの諸活動に積極的に参加する仲間を増やすことは、クラブが元気で永続するための最重要課題としてクラブ会員全員が取り組むべきであると、各地で講演をしておられます。皆様のご参加をお願いいたします。

「ロータリー活動の起爆剤として」

北分区ガバナー補佐 星亀賢一 (東京板橋)

ガバナー補佐活動に入りコロナ禍での制約が多々あり、思うような動きが出来ない状況は否めないですが、この状況だからこそ出来るものがあるのではないかと考えております。これからは今以上にズーム等のデジタルを多用して、できない部分は地区や分区で補いあって、今以上のコミュニケーションを推し進めていきロータリーの活性化、地区とクラブとの情報の共有を図り、活動の起爆剤としてのガバナー補佐でありたいと考えております。各会員、各クラブの連携協力なしには活動できない組織、感謝と共に今後ともご指導ご協力よろしくお願い申し上げます。



「今のロータリーに不易流行を」

多摩分区ガバナー補佐 町田清二 (東京東村山)



ロータリーの目的理念は綱領に書かれているとおり事業及び専門職種の道徳的水準を高め会員が業務を通じて奉仕するために業務を品位あらしめること。社会奉仕は奉仕の理想を社会生活に適應するとある。昨今のロータリーは社会奉仕を単なるボランティア団体にと偏重しつつあると憂っています。

社会奉仕活動は当然実践すべきことですがロータリーの活動は職業奉仕の理念を通じて実践するべきです。ロータリアン行動規範として職業倫理が端的に解る「職業奉仕 12 章」と「四つのテスト」を用いて微力だが多くの会員と接する機会を与えられたこの一年間、職業倫理の啓発を実践して、それにより他の奉仕団体との異なりを明確にして会員増強にも繋がる事を願っています。

「ロータリアンの笑顔」

沖縄分区ガバナー補佐 松島寛行 (那覇西)

「世界で、日本で、地域で良いことをしよう」という大きな目標のもと、各会長さんは新年度のスタートを切りました。コロナ禍のなかですが、各クラブ エネルギーは十分蓄えられていると思います。より大きなインパクトをもって多くの参加意識を喚起して各事業が展開されていく一年となるでしょう。

ロータリーの喜びは奉仕をした時に触れる笑顔です。ロータリーは多くの喜びを生み出すことができます。各会長さんが力強く活動し、会員のみなさんと共にそれぞれのクラブのストーリーを作ってください。地区大会では皆さんの笑顔で会場を満たしましょう。



「感染予防に留意しての活動を…」

中央分区ガバナー補佐 渡邊 創 (東京練馬中央)



今年でロータリーに入会して 15 年になります。若林ガバナーと各クラブとのパイプ役として精一杯務めさせていただきます。現在新型コロナウイルスの影響で、例会等ロータリー活動が制限されている中、会員の皆様もご苦勞されていると思いますが、感染予防に留意しての活動を、お願いいたします。又、感染予防のため、例会、各種会議を ZOOMで行うことも増え、会員増強にもつながる、HP、SNSの活用も必要になってきました。今年度は、若林ガバナーの方針で、地区にデジタル化推進委員会が新設されていますのでぜひご相談ください。最後に皆様との交流・協力のもと、1 年間頑張ってください。